

『歯科衛生士ラダー』を活用してみよう！

歯科衛生士は、国家資格を有する歯科衛生の専門職であり、その責務を果たすためには、基礎となる知識・技術の習得はもちろん、日々進歩する歯科医療に対応するための継続的な自己研鑽が欠かせません。また、科学的根拠（エビデンス）に基づく実践と、高い倫理性を持って業務にあたることが求められます。

日本歯科衛生士会には、皆様の指針となる『倫理綱領』があります。まずは、この基本姿勢を再確認したうえで、歯科衛生士ラダーを活用してみましよう。（歯科衛生士の倫理綱領はこちらへ：https://www.jdha.or.jp/pdf/aboutdh/ethics_jp.pdf）

日本歯科衛生士会病院委員会では、2025年2月に歯科衛生士自身の能力を示す指標として『歯科衛生士ラダー』を作成しました。

この『歯科衛生士ラダー』は、専門職として、習得すべき能力を段階的に可視化することで、「自己の成長を振り返り」と「組織における人材育成」を推進するための指標として位置づけています。

ラダーを活用していただくにあたっては、ラダーに示された『定義』や『レベル毎の目標』は変更せず、具体的な実践例（実践目標）を各施設の業務に合わせて設定すると活用しやすいのではないかと考えています。それぞれのレベルに応じて、段階的に実践能力を高めていけるように実践例や目標を設定するのがポイントです。

歯科衛生士ラダーは、評価のみを目的にしたものではなく、日々の業務と成長を結びつけるためのツールです。自施設の業務内容や役割を踏まえ、「どのような行動が求められるのか」「どの段階でどこまで業務を担うことができるのか」を整理し、実践に落とし込むことが重要です。各施設の実情に応じて柔軟に活用していただければ幸いです。

日本歯科衛生士会 病院委員会・診療所委員会